

(書式 1 - 1 - 1 3 - 3)

未成年後見人を指定する遺言書

遺 言 書

遺言者〇〇〇〇は、次のとおり遺言する。

遺言者は、未成年者である三男〇〇〇〇（平成〇〇年〇〇月〇〇日生）の後見人として、〇〇〇〇（住所〇〇県〇〇市〇〇町〇丁目〇〇番〇〇号、平成〇〇年〇〇月〇〇日生）を指定する。

平成〇〇年〇〇月〇〇日

〇〇県〇〇市〇〇町〇丁目〇〇番〇〇号

遺言者 〇 〇 〇 〇 印

解説

遺言で後見人を指定できる典型的な例は、父母の一方が死亡し単独親権者の場合であるが、その親権者が管理権を有しないときは遺言ができない（民法第839条第1項）。後見人は1人に限られ（民法第842条）、未成年者等の法定欠格事由のある者は後見人になれない（民法第847条）。

